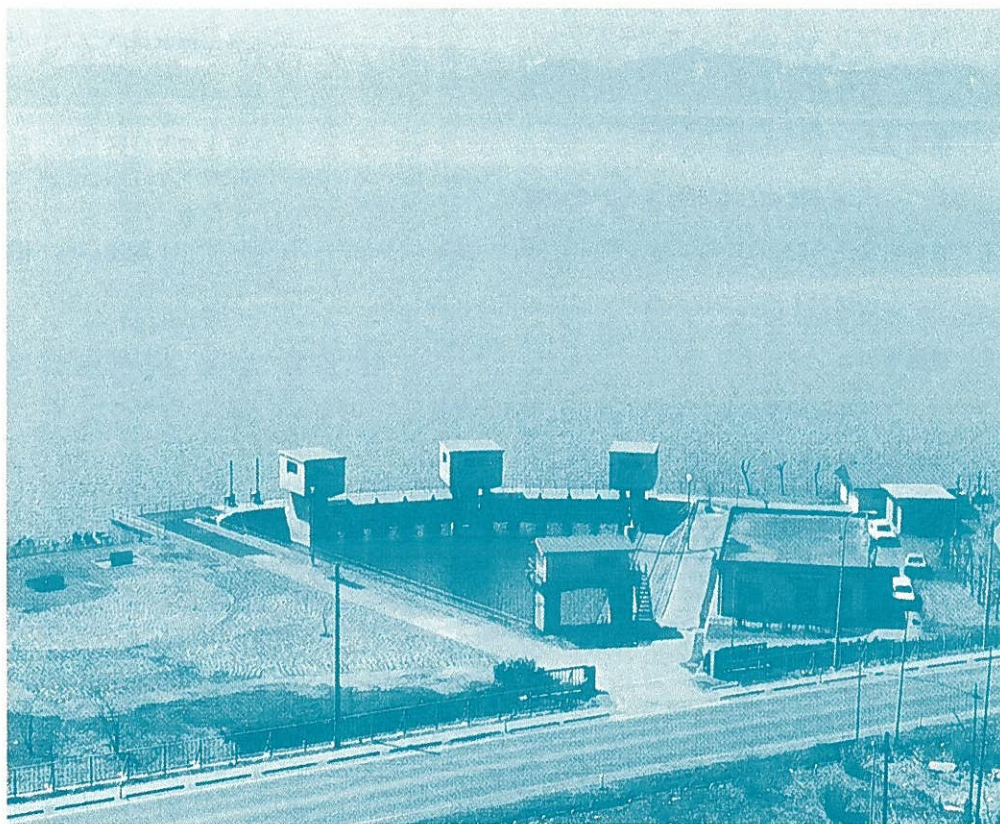


むつみ

第20号 1985. 5. 20



福島県土地改良団体職員連絡協議会

毎年四月になると人事異動があり、悲喜こもごもの話が聞かれるものです。が、二年前の昭和五十八年に田島農地事務所へ転勤を命じられた当時、私もいろいろなことを言われたものです。なかでも、「田島勤務は大変かもしれないが、仕事の面では二度目の農地事務所勤務だし、全く初めての仕事でないだけ、楽なんじゃないか」と、私を慰めるつもりで言ってくれた同僚の言葉も、私にとっては後述する理由で、なかなかつらいものでした。

同じように、田島に着任してからも「今度転勤してきた人は、農地事務所勤務の経験があるのだから、仕事の内容は知っているはずだ」と、ある程度期待をしてくれる言葉にも閉口したものでした。

他人様に慰めていただいたりしながら「つらい思いをした」などと言うのは、不謹慎きわまりない言い方ですが、事実つらかったのです。

このように、全くの初心者同然の状態にありながら、経験者だから内容が分かるはずだと思いきまされてしまったが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

このように、全くの初心者同然の状態にありながら、経験者だから内容が分かるはずだと思いきまされてしまったが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくことができましたが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくことができましたが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくことができましたが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくことができましたが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくことができましたが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくことができましたが、その内容についてはほとんど忘却の彼方というありさまでした。

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「ああ、前にやったことのある仕事」と言葉そのものは思いつくができ

「四月一日」の独白

田島農地事務所 武藤 進

1. 4月1日の独白	田島農地事務所 武藤 進
人事異動に伴う期待	
2. 藤倉ダム建設の思い出	伊達西根堰土地改良区 高倉 政彦
ダム建設の測量、設計、施工について	
3. 季節雑感	土地連 白井 普佐雄
転勤の宿命	
4. 今……思うこと	河東町土地改良区 加藤 ワカ子
は場整備事業の業務に従事して	
5. 用水管理システムについて	安積疏水土地改良区 大内 俊則
安積疏水管理センターの内容	
6. 換地業務にたづさわって	山都町土地改良区 板橋 徹也
換地計画のむづかしさと効果の喜び	
7. 故木崎実氏を忍んで	土地連 角田 弘
新鶴村土地改良区木崎事務局長の死去に際して	
8. 管理指導センターより	土地連管理指導センター
昭和60年度の施設診断と適正化事業の計画	
9. 事務局よりのお知らせ	事務局
① 総会、研修会の予定 ② 昭和60年版土地改良区運営の手引発行 ③ 農業用排水路の賠償責任保険 ④ 役員等の異動	
10. 呑み屋で拾った話（その十二）	平形 清一
① 比較 ② つまみ ③ 付き合い ④ 職員の悩み ⑤ 酒を飲む人、飲まない人 ⑥ 馬券の買い方	
11. 編集後記	
12. 会員名簿（所属、氏名、住所）	

（表紙は安積疏水の上戸取水口より猪苗代湖を眺む）

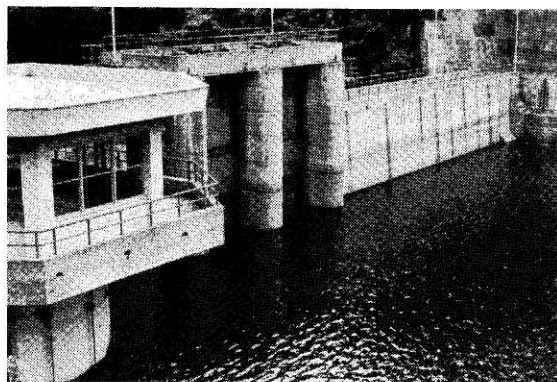
が増えたようです。

藤倉ダム建設の思い出

伊達西根堰土地改良区 高倉 政彦

龍生ダム（旧牧本村、防災ダム）の建設工事も、十年振りで漸く九分どおり完成した昭和三十五年九月一日福島県西根堰用水改良事務所長を拝命し、初めて桑折の町に足を踏み入れた。旧伊達郡役所の右側にあった農協の一室を仮事務所に着用し、ただっ広い部屋の中央に机を据え、ダムの全体設計、運搬道路の測量、設計及び用地買収作業に着手した。発足当時は所長、上野甲子次郎（現農工社）、石幡信知（現本改良区）、八巻孝明（現福島農地）と女子職員の名の陣容であった。

何処の現場でも、そして昔も今も変わらないのが、用地買収補償交渉の苦労である。吾々農業土木事業は地元からの申請事業であるので、一般の純土木事業に比較して買収単価、補償単価は低いきらいがある。そこに吾々第一線を担当する者の人知れぬ苦労があるのである。内の馬場公



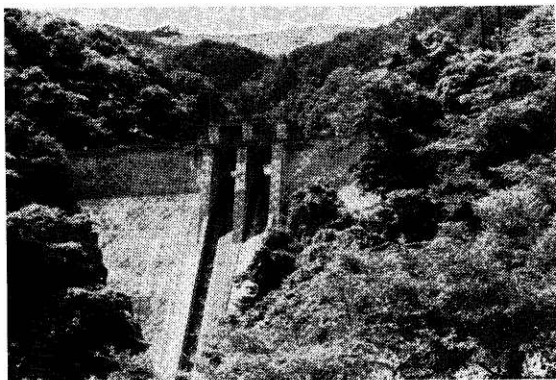
民館で夜を徹して地権者と話し合った事などが、今、走馬燈の如く頭の中を駆けめぐる。当時の伊達西根堰土地改良区理事長半沢金兵衛氏、桑折町長穴戸房吉氏、産業課長松原恒雄氏には色々と貴重なご助言、ご指導を賜わり、種々紆余曲折はあった

三十九年度の予算要求時の頃を想い出す。その後十年近く農業用ダム（大熊町の坂下は多目的ダム）建設に従事して来たわけであるが、要求額をオーバーして予算をつけていたのは、実にこの年が最初で最後でもあった。

この年の七月からダム工事と併行して、水路改修工事にも着手した。三十九年度、四十年年度の工事の最盛期には総勢十七名位でダム工事と、水路工事とにくりくんだのである。今その懐かしい顔を想い出して見ると、初貝安平、岩城武夫、大河原清、黒津信行、上野甲子次郎、石幡信知、小沢信夫、松本昭寿、亀岡和夫、市村和夫、片平喜連、渡辺愛久、石幡良治、羽根田武児、富田英二、八巻孝明、高橋昭衛、菅生信吾、志賀キヨ等の面々である。

半田山の花見、清流摺上川での魚とり、現場での秋のジグスカン、材木ころがしもその頃盛んで、宿直室でよくやったが、僕が一番大きなカモであった事を想い出す。

ダム工事は福島市の佐藤工業株式会社（コンクリートダム）は初めての事とあって、業者も監督する吾々も共



現場の材料試験室に泊り、朝五時頃から打継面のレタンス除去を重点に検査をし、納得の行くまで清掃をさせた。このため打設時間ぎりぎりになったり、又は打設時間を延期させた事も再三であった。堰堤係長の

々に血の出るような苦労を重ねて仕上げたものである。コンクリートダム建設のキーポイントは色々あるが、ブロックの水平打継面の処理もそのポイントの一つである。

今日の打設開始の時間を打合せ、その時間に間に合うように或る時は

が、なんとか調印式にこぎつけ、十一月道路工事に着手する事が出来た

	昭和35年度	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度
堰堤工	—	—	堀 3.8 %	堀 34.7 % コ 9,398 m	堀 37.9 % コ 14,766 m	堀 23.6 % コ 3,000 m 取水塔 閉塞 ℓ = 20 m
仮排水隧道	—	—	ℓ = 124 m	—	—	—
仮切	—	—	1ヶ所	—	—	—
施設	—	事務所 シープ1台	送電線 材料試験室	—	—	管理事務所
仮設備	—	—	バッチャープラント ケーブルクレーン	—	—	撤収
運搬道路	4 %	65.7 %	24.4 %	—	—	付替道路
用地買収	10.9 % 運搬道路	18.5 % 運搬道路	水没民有地	—	—	12.0 % 水没国有地

初貝君が汗をふきふき業者を叱た激励していたあの貴い姿が目に残る。

昭和四十一年三月には総べての工事を終え、四月末にはダムも満水となり、地元民待望の藤倉ダム（堤高三六・五〇米、堤頂長七六・六二米、総貯水量九〇五、〇〇〇立方米）がここに目出度く誕生したのである。この中間補給用のダムのお陰で、四十八年、そして昨年の大旱ばつにもその被害を最小限度に喰い止める事が出来たのである。

季節感

土地連 白井 普佐雄

四月も下旬、春の転動シーズンが一段落した。転動はサラリーマンの宿命といわれている。幅広く人生や社会を学び、またそれが当事者の進路にもつながるといふ。栄転？などということであれば「転動もまた楽し」である。

官庁や企業などが、人事異動の中で転勤を重視しているのもそのメリットを考えてのことだろうか……

三十六年度には、町役場の一角を借用して事務所を新築し、運搬道路の大半を施工した。

今、往時を振り返って年度別の工事施工の状況を文献から拾って見ると、上表の通りである。

昭和三十八年七月十七日午前十時、佐藤善一郎福島県知事ご臨席のもと、ダムサイトに於て受益者、そして吾々待望の定礎式を挙行、ダム本体の建設に力強くその第一歩を踏み出した次第であった。ダム本体は三ヶ年で終了したのであるが、ここにも思い出の一つがある。現在では勿論の事、その当時でも予算獲得には仲々きびしいものがあった。毎年十二月頃局ヒヤリング、一、二月頃本省でのヒヤリングがあった。当時は県担当者、所長等があつた。重量的なタイプが計算機持参で上京するのが常であった。その折には改良区の理事長、副理事長の石幡吉左エ門先生のご同行を願ひ、亀岡高夫衆議院議員、又当時農林省農地局建設部かんがい排水課長梶木又三氏（現参議院議員）に側面的に夫々陳情をして載いた。そのためか吾々の要求額をオーバーして予算をつけていた。昭和

色々と思ひ出はつきないが、こんな縁故もあつて五十一年四月から本土地改良区にお世話になり、もう十年にも垂んとしている。当時足繁く通ったこの道、あの道に想ひをはせ汗と涙で築きあげたダム、上堰頭首工、そして用水路の維持管理に万全を期しながら、朝には希望を、日中は誠心誠意努力を、そして夕には感謝の念を常に胸にいだきつ、元気に勤務している今日この頃である。花の便りも近い。

だが動かす側、動く当事者には確かに意義があるのかもしれないが、家族の心労、犠牲は計り知れないものがある。子供の教育、配偶者（妻）の協力等、人それぞれに当人と家族しか分からない人間模様がそこに秘められている。上司、先輩に戒められ、同僚に慰められての転勤である……と。

小生も今回は当事者となり、今ま

では違った場所から土地改良事業の片隅の一端を担うことになった。転勤者にとって新しい職場はいやなものである。人と人とのつながりの中で、名前と顔を早く記憶することが容易ではない。又、仕事の内容もわかりである。自分自身のメリットがあるのかないのか、そんなことを考える余裕さえない。ただ無我夢中である。

転勤も職場のマンネリ化と一辺倒防止には必要な浄化法であるような気がする。組織の一員である、ということから考えれば、これもまたいたしかたないと自分を慰める。

ある程度落ち着いた頃、県の関係機関に挨拶に行った。「今後ともよろしく」「どんなことをやるの、どんなことをやるの、どんな仕事なの……」と「行くところ行くところ、同じことが返って来る。同じような回答をする。最後にどうもお邪魔しました、よろしくお願ひしますと引上げる。帰ってきて、お邪魔するようなら行かない方がよかったかなと自分の揚足をとりたくもなる。

春は楽しい季節であつたはずなのに……。会津の春は、又格別であつた。冬が長く厳しく、毎年十二月か

ら三月までは雪との戦いである。雪に攻められ、酒に助けられる毎日であつたような気がする。

会津盆地にも、四月中旬から春がやってくる。梅と桜が一時に咲き揃い、萌え出る新緑の野山に喜びの春が満ちあふれ、待ちに待った春に人々の顔は輝くのである。

寒さの厳しい冬であればあるほど、春が待ち遠しく、春の喜びは大きい。会津の人達はこの自然の変化を喜びと感じ、花見酒に心を癒やすのである。桜も散り、若葉の繁る頃となれば盆地特有の暑さが待つ。この暑さで今年の豊作を願う。豊作を願いつゝ、盆踊りに踊り楽しむ。それは秋の取入れと、そして厳しい冬への心の備えだと思ふ。

春夏秋冬を相手に生れ育ち、最初は花になるのか葉をつけるのか、それすら見分けられない程の幼稚な芽であつても、いつかはきっと大きな実を付けたいと願う。喜びの春も、暑い夏も、厳しい冬への時代を乗り越えるために、あるような気がする。これらの土地改良事業も、時代の流れを見つめ、足腰の強い農家育成をめざし、大きく躍進していききたいものである。

すまず職員間の信頼が深まることを

望んで努めていきたいと思ひます。

用水管理システムについて

安積疏水土地改良区 大内 俊 則

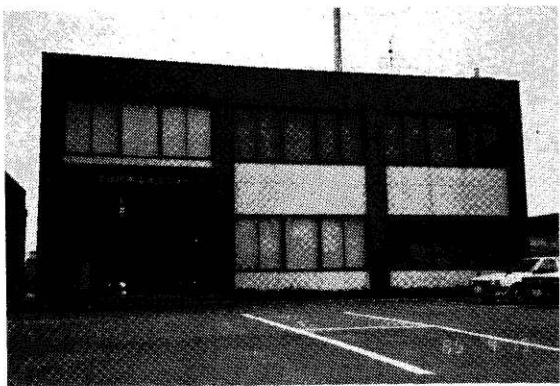
安積疏水は、主水源を猪苗代湖に

求め、標高五一四・一二m(定水位)の高地より、受益地標高三〇〇m、二二〇mに自然流下され、東西約一五km、南北約三〇km、かんがい面積は、福島県の水田面積の約一〇%弱にあたる約一万haを有する広範囲に亘る地域である。

猪苗代湖の上戸取水口より取水された用水は、四kmの隧道を流下し、田子沼地下分水工で、新安積地区(須賀川方面)に分水し、一級河川五百川に注水され、途中五百川地区(本宮方面)が取水したのち熱海頭首工で取水し郡山西部山沿えを、流下する。

又新安積幹線水路は、約六〇%の隧道で、山の中腹を北から南に流下している。

安積疏水幹線からは、主要分水(第一分水路より第七分水路)が、西から東へと安積平野に分水されてい



会員の皆様、よろしく御指導下さ

いますようお願いいたします。

今……思うこと

河東町土地改良区 加藤 ワカ子

外は春の陽気に包まれていると云うのに、私の心は重い。一先月より「むつみ」寄稿依頼のお便りを頂いて以来、ずうっと気ばかりあせって何にも良い題材が浮んでこないからです。

今、私にとって最も長い職場となつてしまつたこの土地改良区を深く考えるとき、しみじみと任務の重さを感じずには居られません。入つたばかりの頃は、何が何んだかさっぱり解らず、ただひたすら上司から云われるままに、夢中で仕事にたずさわつて来ましたが、果して役に立つたかどうか、私には疑問に思われま

大事業であるからです。そのような重大な仕事の手伝いをして来たことに身がひきしまる思ひです。多くの問題をかかえ、長い年月を経て、今ようやく換地登記が完了し、はじめて私の担当している地区の皆さんへ「権利書」をお渡しすることが出来ました時、本当にほつとした気持ちとともに反面、まだまだ喜んでもらえない人達のことまで忘れてはなりません。何に事も適正な処理をしてこそ、立派な事業が成し遂げられることと思ひます。

行く用水管理システムが、国営かんぱい事業により昭和五十七年度に完成された。

その用水管システムをこゝに照会したい。

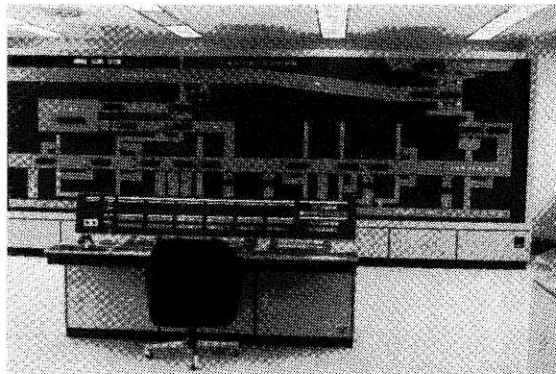
安積疏水の門をくぐると、本館の右側の建物が、用水管理センターである。

総二階建、延べ面積二七四・五坪である。管理センターを親局として、設置局は、子局一局、孫局三局、計一五局となり、それぞれ無線或は有線で伝送される。

センターの機能としては、用水管理監視盤操作卓があり、テレメーター、コントロール装置によりデータの収集、遠方制御を行う。操作卓前面には、遠方制御に必要な選択によるデーター表示等がある。流量はパーシャル計が設置されているヶ所は、二ヶ所であるが、その外は、流速計及び水位計により計測した流速と、水位を、センサーで流量に演算されて表示される。

深田調整池の貯留量は、音波式水位計により計測した貯水池水位からセンサーで貯留量に演算される。

対象施設としては、制御ゲート一四ヶ所、水位計測九ヶ所、流量計測



八ヶ所となる。又近年は集中豪雨型の降雨頻度が多く、広範囲のため、その都度神経を尖らしていたが、システムの中に、自記雨量計(熱海頭首工、深田調整池、用水管理センター)の三ヶ所はそれぞれ山沿え、平野部と設置され、又猪苗代湖の降雨などは、水位表示等により判断し、即刻対応が出来、適正な用水管理が行なわれる様になった。かんがい期に入ると、管理センターは、二四時間勤務体制をとり、四人の職員が交代で勤務に就く。又地区内の巡視は施設看守員の外、無線を備えたジ

プで巡回する。昨年は、今までにな
い干天にもかゝらず適正な用水管

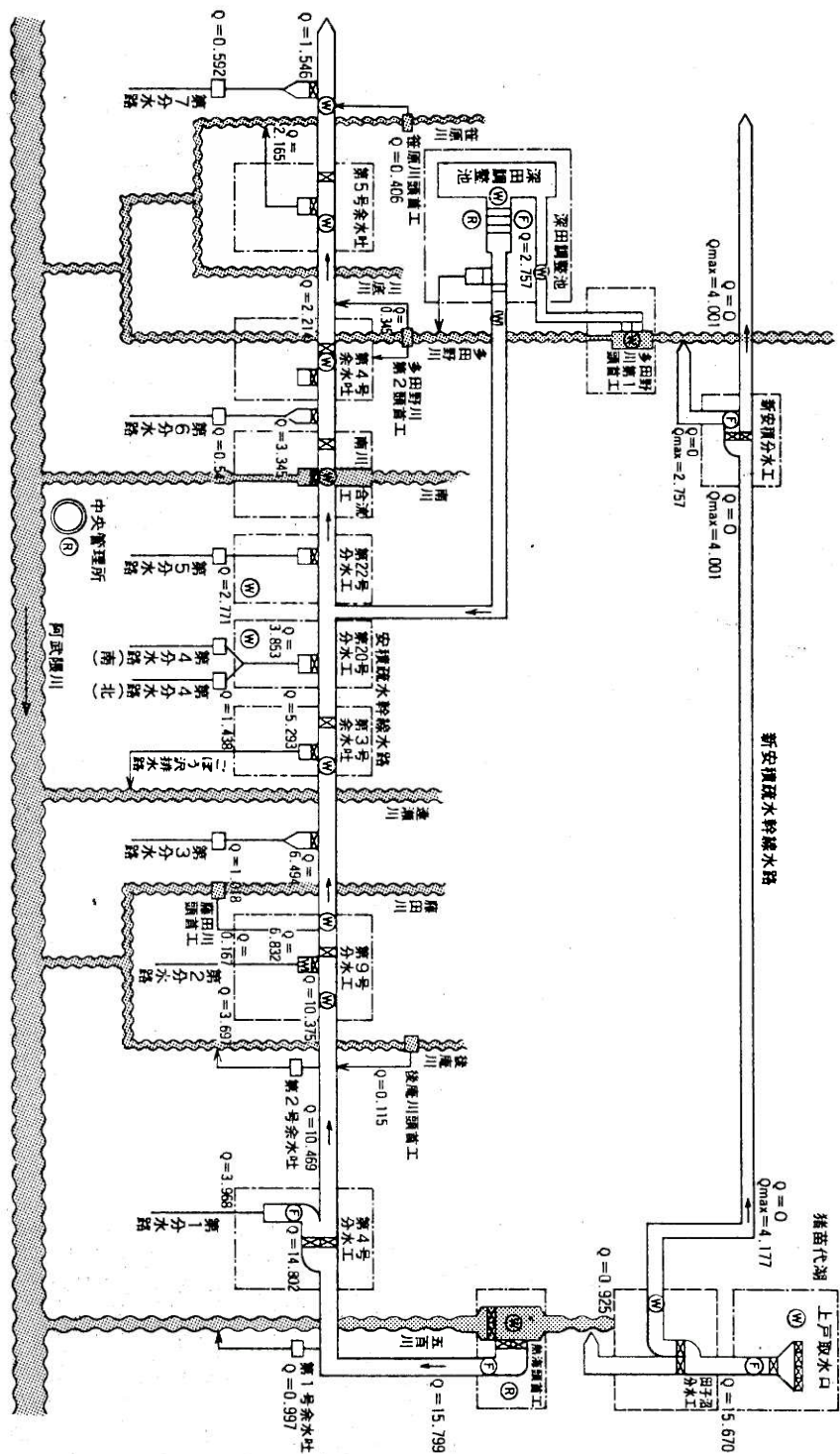
理により、大きなトラブルもなく、
管内の水稻については、まったく干

ばつ被害が生じなかった。
これも、は場整備、かんばい等の

事業効果の表れであり行政機関に心
から感謝を申し上げたい。

- ① 水位計
- ② 流量計
- ③ 雨量計
- ④ 風向速計
- 河川
- 開運水路
- ゲート
- 子局
- 親局

用水管理様式図



今後はさらに土地改良区の発展を

願うものである。

換地業務にたづさわって

山都町土地改良区 板橋 徹也

いま、私共の土地改良区が昨年か
ら二カ年で行っているは場整備事業
は、約6ha程度の小規模が一つだけ
である。私は換地計画にたづさわっ
て約二十年、先輩各位と同僚のご指
導によって、大小約六十地区のさま
ざまな内容の事業を進めて来たが、
どれ一つとして満足なものは無かつ
たように思われ、今再ながら換地業
務のむづかしさが思い知らされた。
中でも、小反別の参加者の取扱いに
ついては何にかと悩まされたことで
あるか。しかしこれらの事業も終了
しつつあるが、ようやく計画の内容
が少し解ってきたように思っている。
最近になって受益者各位の意見を
総合すると、は場整備の良さ、計画
による集団化の良さは勿論のこと
はあるが、昔のままであった権利の
移動が一般登記のような煩しさもな
く、軽い負担で適正に終了する良さ
を認識されることは、せめても心の

休まる思いである。

始めて計画を担当した当時は、日
夜をわがため換地委員会、地権者会
議等において、それぞれ自分本位の
苦情には、私の責任のような錯覚さ
いおぼえ、やけ酒を頼りとしたこと
も幾度であったか。しかしその都度
上司や同輩に助けられ、時間をかけ
ながら処理して来たことは、今思え
ば、換地計画とは単に受益者の為の
みならず、担当する自分自身の精神
的なものまでも整理してくれる尊い
ものであったことを知らされ感謝し
ております。

私共の土地改良区は、町に一つだ
けのもので町一円を受益地として、
各事業が施行されたため、生れてこ
のかた疎遠であった受益者の方々と
接する機会を得て、最近では息子や
娘の縁談も持ちこめそうな近親感さ
いおぼえる程である。
事業とは、計画とは困難で煩しい

ものと頭からきめていたが、その効
果は高価なものであった事を感じ、
謂ゆる金銭計算外の価値であり、苦
労の代償である喜びが残りました。
間もなく退職しなければならぬ年
となったが、事業計画地区は勿論広
く、部落ごとにそれぞれ語れる人々
も出来、近き将来はは場整備後の眺め
の良い所で一ぱい酌み交したい計画
もひそめているところです。

今後は残された計画の処理を適正
に終了するよう努力しながら、土地
改良事業の良さをそれなりに語って
行きたいと思う。ただ最近、農業
に対する事業が思うように行かない
時代となり、仮りに施行されても受
益者の負担が嵩み、従ってようやく
出来上ったは場を、償還財源として
もなお満たない心配もなくはない事
情である。また謂ゆる共同施行的に

仲間同志で行った区画整備の処理の
問題等であるが、前者は状況判断に
よってさけられるとしても後者は、
法律的な援助なしには解消出来ない
ように思われる。このような事業は
単に我が町だけにとどまらないこと
と推察されることから、本会でも何
んらかの調査が必要ではないかと思
う。

最後に、政治活動に努力されてい
る先生方に我々も出来る限りの協力
は惜まないが、逆に諸先生方におか
れても末端改良区で日々努力してい
る職員の身分の保障に対して温いご
支援を賜わるよう、本会を通じて切
にお願いしたい。「冬来たりなば春
遠からず」とか、換地計画にたづさ
わる各位と共に、花咲く春のある事
を信じ仕事に専念したいと思う。

故木崎 実氏を偲んで

土地連 角田 弘

新鶴村土地改良区の事務局長であ
った木崎実氏が死去されました。氏
は去る四月二十五日午後六時、土地

改良事業の部落説明会中に突然倒れ、
救急車で病院に到着する前に脳血栓
のため死去されました。氏は昭和三

十二年若松商業高校を卒業と同時に新鶴村土地改良区に奉職し、二十八年間の永きにわたり一筋に土地改良事業の業務に、土地改良区の運営に精励され貢献された。最近では、昭和五十六年度より村一円の念願であった県営ほ場整備事業を着工されたのも氏の努力の賜であり、この事業の完成を見ることもなく永眠されたことは、さぞかし心のこりであった

ことと思われます。また氏は音楽愛好者でもあり、自らバンドを結成して活躍し、会津では有名な人物であった。氏の手ほどきを受けた方も数多いことと思われます。

土地改良事業のこれからの手腕を期待されながら、弱冠四十七才で死去された木崎美氏のご功績に対し深く感謝すると共に、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

管理指導センターより

二、土地改良施設維持管理適正化事業計画

適正化事業については、実施地区の指導及び新規加入地区の現地確認を実施し、適正な維持管理を指導し又、新規加入地区及び事業実施地区を対象に担当者会議を開催、適正化事業の拠出金、補助金交付、竣工検査に関する指導、又今後より一層の実施体制を整備強化し、更に事業量増加の推進を図る。

昭和六十年度の事業計画は次のとおりであります。

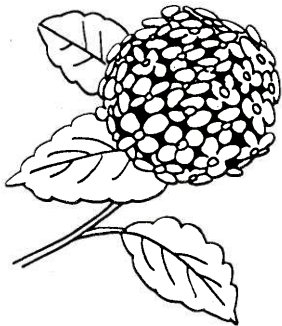
一、土地改良管理指導センター実施計画

土地改良施設の点検・整備・操作等土地改良施設の管理に関する専門技術的な診断及び指導を実施する。また土地改良相談業務については、現地相談所を開設して、土地改良事業に関する苦情、紛争等についての調停、事業計画の樹立、工事の実施並びに事業主体の組織運営に関する助言及び指導を実施する。

土地改良施設診断実施計画について

定期診断施設（60年度）

ため池	用排水機	工 頭	ム	ダ
22	61	19	15	
	計	水 路	樋 水 門	
	134	2	15	



事業実施計画

(1) 資金拠出予定

加入期生別	資 金 拠 出					資 金 拠 出 の 明 細					
	土 地 改良区	市町村	農 協	その他	計	土地改良区等拠出金額	地方公共団体補助金		国庫補助金額	計	
V 期 生	13	0	0	0	13	4,200	県	市町村	計		
VI 期 生	16	5	0	0	21	9,300	9,300	0	9,300		27,900
VII 期 生	13	4	0	0	17	9,300	9,300	0	9,300		27,900
VIII 期 生	12	3	0	0	15	9,300	9,300	0	9,300		27,900
IX 期 生	9	6	0	0	15	5,400	5,400	0	5,400		16,200
計	63	18	0	0	81	37,500	37,500	0	37,500		112,500

加入期生別	資 金 拠 出 対 象 施 設 数						計				
	ダ ム	工 頭	用排水機	ため池	樋 水 門	水 路	その他	計	国 営	県 営	団 体 営
V 期 生	2	0	7	1	4	5	0	19	0	6	13
VI 期 生	4	5	6	0	2	8	0	25	1	15	9
VII 期 生	2	2	11	2	3	5	0	25	2	13	10
VIII 期 生	2	4	3	0	4	5	0	18	1	10	7
IX 期 生	5	7	11	0	0	0	0	23	1	14	8
計	15	18	38	3	13	23	0	110	5	58	47

昭和60年度農業用排水路賠償責任保険加入状況

土地改良区	加入 対象km数	保 険 料	賠償対象 年 月	対 象 物 件 内 訳	
				水路 km	ため池 圃 km
郡山市多田野	2.8	1,456	4/1より		1カ所 2.8
矢 吹	6.8	3,536	"	6.790	
大玉(安達太良)	4.2	2,184	"	1.2	3ヶ所 3.0
利 根 川	6.0	3,120	"	6.0	
会 津 北 部	14.4	7,488	"	5.4	3ヶ所 2.0
梁 川 町	9.8	5,096	"	7.748	1ヶ所 2.0
二 本 松 市	22.0	11,440	"	18.6	3ヶ所(岳ダム外) 3.380
鹿 島 町	121.4	63,128	"	57カ所 76.430	98カ所 44.930
新 鶴 村	5.4	2,808	"	5.4	
須賀川市浜田地区	31.8	16,536	"	29.26	5カ所 2.535
桑 折 町	3.5	1,820	"	2.6	1カ所(半田沼) 0.9
鮫 川 村	4.8	2,496	"	3.6	0.174
会津若松市湊	27.7	14,404	"	19.7	5カ所(8.0
山 信 田	2.0	1,040	"	2.0	
中 島 村	24.4	12,688	"	20カ所 17.4	19カ所 7.0
福 島 市	31.3	16,276	"	(栗本水路) 31.3	
遠 田 貝 沼	6.1	2,908	5/1より	6.035	
塙 町	6.2	3,224	4/25より	6.200	
矢 吹 原	74.4	35,464	5/19より	74.350	
愛 谷 堰	21.0	10,010	5/1より	21.0	
滝 根 町	2.8	1,335	"		21カ所 2.74
好 間 堰	7.3	3,480	"	7.3	
双 葉 町	9.0	4,290	"		8カ所 9.0
駒 形	12.0	5,720	"	12.0	
河 東 町	6.3	3,003	5/27より	6.3	
東 根 堰	28.0	12,134	6/14より	28.0	
請 戸 川	13.5	5,850	6/1より	11.886	湛水 1.6

約、諸規程も改正の上作成しております。特に土地改良区の議案の作成や帳簿の作成についても詳細に様式等で示されており事務処理上大いに役立つものと思われます、また幾年に一回の発行となりますので是非

ご購入をお願いしたいとの土地連からのお願いです。
なお、手引の内容の説明会は業務研修会として、県と共催で六月下旬以降管内別に開催する予定であります。

3. 農業用排水路賠償責任保険の加入状況について
本年度から土地連が窓口となり一括申込の手続を行っております。土地改良区及び市町村が管理している農業用排水路(ダム、溜池も含む)

この保険については四月一日からの加入土地改良区及び加入内容は次のとおりでありますので参考にして下さい。なお本年度中途に加入される土地改良区及び市町村は約二十五ありますが保険料は月割となります。

1. 総会、研修会の予定
日程内容については五月下旬開催の幹事会で決定されますが、予定としては七月二十六日午後一時から相馬市の松川浦において永年職員の表彰(本年度からは表彰規程のとおり

表彰いたします)、続いて昭和五十九年度の事業報告、決算等の総会を開催いたします。
総会終了後午後二時から職員研修となる。研修内容は地元管内土地改

良区から浪江町土地改良区より改良区の合併等の問題、次に県市町村職員研修所長の斎藤満氏より、さらに土地連の笠原会長より講話を、また県農林課土地改良団体係長の石川さんより土地改良区運営の手引の詳細な内容を説明していただくよう予定しております。

なお本年度は役員の改選も行うこととなりますので、各方部で内々に

事務局よりのおしらせ

良区から浪江町土地改良区より改良

2. 昭和六十年度土地改良区運営の手引が発行されました。

すでにご承知のとおり土地連では、県の監修のもとに、現在使用中の「昭和四十九年版土地改良法関係事務処理の手引」を全面改訂して新たに表題手引を発刊いたしました。

勿論昨年度までの土地改良法及び同施行令等の改正も含めて定款、規

(2) 土地改良区施設整備補修事業予定施設一覧表(期生別)

事業実施 土地改良区等名	事業内容			
	施設名	事業費		
		工事費	事務費	計
二本松市土改区	溜池	3,000		3,000
小野町 "	揚水機	3,500		3,500
東 村 "	溜池	3,000		3,000
上山下堰 "	水路	2,000		2,000
小高町 "	排水機	2,500		2,500
V期生計		14,000		14,000
伊達西根堰土改区	ダ ム	4,500		4,500
福島市	水路	15,000		15,000
西 郷 土改区	水路	3,000		3,000
会津高田町	ダ ム	4,000		4,000
上山下堰土改区	水路	2,000		2,000
田島町 "	水路	2,500		2,500
VI期生計		31,000		31,000
福島市土改区	揚水機	2,000		2,000
梁川町 "	頭首工	4,000		4,000
福島市	水路	4,000		4,000
土田用水堰土改区	水路	5,000		5,000
新郷地区 "	揚水機	4,000		4,000
会津若松市湊 "	揚水機	4,000		4,000
柳津町 "	揚水機	2,000		2,000
磐城小川江筋 "	溜池	6,000		6,000
VII期生計		31,000		31,000
伊達西根堰土改区	ダ ム	5,000		5,000
矢吹原 "	揚水機	2,000		2,000
上山下堰 "	頭首工	15,000		15,000
新地町	排水機	3,000		3,000
小高町土改区	頭首工	3,000		3,000
VIII期生計		31,000		31,000
安積疏水土改区	揚水機	4,500		4,500
鏡石町	揚水機	2,000		2,000
矢吹町	揚水機	6,000		6,000
小田高原土改区	揚水機	3,500		3,500
遠田貝沼 "	揚水機	2,000		2,000
IX期生計		18,000		18,000
合 計		125,000		125,000

4. 役員の異動

去る三月に次の方が退職されました。

副会長で、戸ノ口堰土地改良区の本田信雄さん、幹事の松川町土地改良区に加藤欽次郎さん、さらに元役員であった浪江町合同事務所の桑原益夫さん、福島市土地改良区の石田長吉さん、安積疏水土地改良区の清野丑吉、青木庸哉両課長、上山下堰土

地改良区の佐藤義美さん等が退職されました。

これらの方々とは土地改良区に永年勤務され私等の先輩として土地改良は勿論、本協議会の運営に良き指導者として大変ご尽力下されて、本当に名残りおいしいことですが、今日までのご苦勞を感謝申し上げ、皆様方のご健勝を祈願いたします。

呑み屋で拾った話(その十二)

平形清一

一、比較

いつものことではあるが、何にかの会合で夜酒を飲むとなると、幹事を務める人は適当な良い店をみつけるのに大変苦勞する。そもそも安い予算でたらふく飲んでうまいものを食べて面白くサービスの良い店となると、いくら頭を廻してもあるわけがない。それでもあちらこちら捜しようにやく予算に近い店を定めるのが幹事としての役目である。酒呑みは良い店、面白くない店、高い店、安い店等比較することが多く時には酒の肴にもなっている。何にも酒呑み

に限らず日常働いている場合でも良い上司、面白くない上司、反対に良い部下、役に立たない部下、気心があう同僚、付合にくい同僚、話にくい人など何に事についても比較すると数限りがない。酒を飲んで勘定を払うとき「高いなあー」といつも思う。この高いの基準はいろいろあつて不明確だが、なんとなく自分の計算より多くお金をとられ馬鹿にされた気分になり、飲んだ酒も一時的にさめてもう二度と来るもんかと思う時もある。それでも幾日か過ぎると又顔を出すのが常である。金のか

からない安い飲み方は飲みものだけであまりつまみや食物を注文しないことである。飲食店は一般に食物で儲かるのでそれを注文しないとあまり良い顔をされない。また美人ママや若い人のいる店などはそれなりに顔に値段がついているが、その値についてでもその相手する人によって違っているので比較するのはむづかしい。比較する場合は出来るだけその人、その店の外に別な人、別な店と比較すれば良いや悪いが反対になり悪い店も良い店になり高いと思った飲み代も安く思われる。また普通に眺めていたママさんもわりあいきれいな人に見えることがある。酒を飲んで酒のつまみに他人のことと比較しながら仕事のことと不満をたらず人がいるが、聞えている方から言えば有難迷惑であり、返事では同情し相打ちするが、ご本人がわれに見えてだらしく思われる。「井戸の中の蛙大海を知らず」で今少し数多くの人と付合つて数多くの店に入出して大人にならなければならぬ。酒を飲んで高いと思わなくなるには一番高級な高い店に行つて経験するとその他の店は安く思われる。いづれにしても小さな比較を自分の都合

の良いように何日も考えていると人生の旅は持たなくなることです。

二、つまみ

酒を飲むと必ずでてくるつまみ(食物)ではあるが、大衆酒場のある一部の店でない限り値段はまったく不明である。それでもあまり気にもせず注文して食べている。食べる前にその食物が幾らなのか聞いて飲む人はほとんどないから不思議である。酒のつまみは魚や肉もよいが、最近野菜が多いようである。野菜のためはすぐ手軽にできて、食べる時もシャキとした歯ごたえで酒のつまみにはもつてこの料理となるが、ときには野菜から水分が出てきてベタついていたり、冷たくなって歯ごたえどころか食べ気も失うものもあります。これなどは弱火で漫然といためられたもので作り方がわからないのではないのか。野菜のためのうまきは短時間に強火で一氣にいため、材料の回りに油の膜を作つてしまふことがこつとのこと。このためには野菜の大きさをそろえて切るのと、シイタケ、サヤインゲン、ニンジン、はせん切り、タマネギはくし切り、さらに干しシイタケはぬるま湯

でもどしておきサヤインゲンは固ゆでにします。なべの大きさが三十センチくらいなら四人分が限度です。またいためるときは油を熱してから野菜を入れます。

さらに手軽いつまみとしては焼きとりとなるが、焼きとりは昔からピタミン、ミネラルなど栄養価の高いレバーや食べやすいひき肉と一緒にくしに刺し焼きとりとして造るが、なんといいっても焼きとりはたれと焼き方が決め手となります。炭火やガス火の遠火で焼く、初めは素焼きにし全体に火が通ったら、たれをまんべんなくつけてこんがり焼き上げることである。

三、付き合い

仕事を円滑に進めるためには同僚や上司との付き合いは不可欠だと考えている人は八十%以上います。それでは、その付き合いにかかるお金はとなると、管理職が月平均五万五千円、その他の人でも三万五千円となつています。この付合額は一般的な平均で、中にはこれ以上かける人や反対に自分のふところからは出さな

いの頻度はとなると、週二日が三十五%、一日が十五%、毎日が十%となつていますが、このように会社や職場の人と交際に精を出した結果、何が得られたかとなると、人間関係がうまく行くようになった、いざいざというとき無理をきいてくれるようになった、仕事に張力ができたと答えた人は九十%になつていますが、これはそう思っているだけで結果の得はどうかかわらないのが一般的である。しかし人によっては付合いなどする必要はない、まじめに働けばきつと解つてもらえると思つてい

る人もおられます。どちらにしても自分が思うだけでは相手に通じるのは十%くらいしかないそうである。そのためにはただ話を聞いただけ、思つただけではわからないので何んでも教えてやらせて、やってみることである。

この点について昔「山本五十六長官」の名言として「してみせて、言つて聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」と。

四、職員の悩み(その2)

昨年の第十七号でお話した悩みの

続きとなりますが、永年土地改良区等に勤めている会員の皆さん方は、いざ土地改良事業のことになるといづれも先生と呼ばれるくらい何事も裏表まで解りきつておられるが、時には仕事のことで一人で悩むことがある。特に酒席となるとその悩みの話が出て返答に困ることが多い。国や県の偉い人は「あなたの思うことを考えていることはごもっともと思われまふので今後よく検討して善処したい」と返答すればよいが、私等の話しでは中々そうゆかない。

① この土地改良区は県営や団体の宮のほ場整備事業が完了すると償還業務と維持管理だけとなつて、改良区の事務が縮小されるか他の改良区に合併されるので、当然職員も現在の半分以上となる。このため仲の良い同僚も退職することになる。これから職員の行く先の世話をもつと真剣に考えてもらいたいかと。

② 今まで土地改良事業を数多く実施して村の農地のほとんどが整備された。しかし地元負担分である償還金の未納が年々多くなつて改良区の運営上にも響き困っている。滞納処分もよいが、何にか良い方法はないか。特に農地造成事業の場合は、

造成された一部の畑からの収穫は少なく所得も0の場合がある。また当時指導された方は今はおらず、もんくも云う事ができない。このため他の企業に働いて償還金を納めなければならぬのか。

③ ほ場整備をやるなら米の値段をもつと上げてもらいたい。例えば一反歩の収穫は十俵で約十九万円、必要経費(肥料代・農機具代・労賃等)十一万円で残りは八万円、維持管理費や運営費で四万円等を払うと一反歩当り四万五千円しか残らず一町歩で年五十万円、一般の主婦のアルバイトの賃金より少ない。このため大手の農家では農業以外で収入を得て農業の借金を返している。これでは専業農家はやって行けないので、農村総合整備や土地改良事業をやるなら所得のことも計画だけでなく、実のあるように考えてもらいたいとのこと、本当にまいてしまします。

五、酒を飲む人、飲まない人

一般に勤めている人は酒を飲む機会が多い。なんとかかんとかと云つて何事にもその名をつけて飲み店に出かける。趣味というか、娯楽とい

8	7	6	5	4	3	2	1	枠 順
		3. 1. 5	3. 4. 6	3. 5. 6	5. 6. 4	5. 3. 1	5. 4. 6	頭 数 6
	6. 5. 2	4. 3. 7	6. 2. 7	7. 6. 2	7. 6. 1	5. 7. 4	4. 2. 5	7
6. 4. 2	8. 1. 5	3. 1. 8	7. 8. 3	3. 6. 8	6. 4. 1	8. 3. 7	6. 3. 7	8
5. 1. 4	8. 5. 1	3. 8. 5	8. 7. 4	8. 3. 5	6. 4. 8	8. 1. 4	8. 6. 2	9
7. 1. 6	8. 4. 3	8. 4. 3	8. 6. 1	7. 8. 1	8. 7. 6	1. 7. 8	8. 2. 7	10
7. 6. 1	8. 4. 1	1. 7. 4	7. 6. 2	7. 6. 5	6. 2. 8	6. 5. 3	6. 7. 4	11
5. 6. 7	8. 6. 1	5. 4. 2	6. 3. 2	8. 7. 6	5. 6. 8	8. 4. 6	8. 7. 5	12
5. 4. 3	3. 4. 5	3. 1. 5	8. 6. 3	1. 3. 6	4. 7. 1	5. 4. 7	4. 3. 6	13
4. 1. 7	4. 5. 8	4. 5. 8	4. 6. 7	1. 5. 8	6. 4. 8	4. 5. 7	4. 5. 8	14
3. 4. 2	6. 3. 2	3. 2. 8	3. 2. 6	8. 3. 2	4. 6. 2	3. 4. 6	3. 2. 6	15
3. 7. 1	3. 1. 4	1. 5. 7	7. 3. 1	3. 1. 7	8. 1. 7	5. 1. 7	3. 6. 7	16

例 (1)

8		7		6	5	4	3	2	1	枠 順
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	馬 番
	○	×			△			△	◎	予想新聞 A
	◎	△						×	○	B
	△	◎		×					○	C
	◎			○				×	△	D
○									○	自分が思う 連からの馬
8-7 8-1 8-6									1-8 1-2 1-7	別表の数字 (馬券)
注：枚数は配当・ オズによって 購入すれば良い				8-7 8-6	1-8 1-2 1-7		自分が検討 して購入す べき馬券			

うか付合か知らないが、よくあきないで飲むものである。酒のすきな人、煙草のすきな人、マージャンやゴルフのすきな人、競馬などのかけごとまで小遣いを使うとなると大変なことで、当然財布も軽くなりたまには反省することが多い。そこで煙草を吸わない人は月五、六千円残り、酒を飲まない人は飲む人より月三万円から五万円残り良い生活が出来る計算になってくる。また酒を飲まない人は飲む人に対し「何んで馬鹿みたいにお金を使ってどんな気で飲んでるのだろう。よくお金が続くものだ」と云う。さらにかげごとまで広めてお金を使うとなると大変な出費である。しかし世の中はうまくできており、いろいろとお金を使う人は、使わない人より割合おらかである。このようなお金を使わなければ年間五、六十万円残る計算になる。ところが飲む、飲まない、かけごとをやるやらない人と比較すると、お酒を楽しく飲んでる人の方が金が無いようであり合に金の回りがよいことになっている。勿論、家庭の事情や生活の上手下手もあるだろうが、酒を飲むから貧となり飲まないから豊となるとは限らない。かえってお金

を使う人はその分どこからか資金を求めなければならず、常にお金に対する努力、生みだす頭をもっている。ので、当然収入を得るよう活躍しているが、お金を使わない人はそれらの心配はあまりすることがないので努力する必要もなく、その方の頭もあまり働かない。このため生活の暮しは差引同じことになる、との酒飲みベテランの話である。だからといって酒を飲まない競馬もやらない人は頭をつかわないように思うが、そうではなく別な面に回っていて、この話はお金を使わない人、お酒を飲む人飲まない人の損得のくだらない計算の要領とのことである。

六、競馬の馬券の買い方

本年の福島競馬は新潟競馬の代替もあって例年より多く開催され、賭けごとのすきな人はその資金ぐりに大変苦労して開催期間(八日間)の最終までもたないようである。賭けごとは儲けないと意味がない。一般の人は五千元か一万円をもって帰るには二万円か五万円になるつもりで馬券を買うから当らない。馬券を買っても当たらないければ金は無くなる。と解っているが、大部分の人は二千

円や五千円損をしてもたいした事を云って負け惜みしている。しかし毎回や一ヶ月、三ヶ月ともなれば、たとえその間に当たったとしても多額の出費、損となる。前にも話したが儲けるには一割でも良い。また、配当が少なくとも全部無くなるより良いと考えなくてはならない。千円で千百円となっても、銀行の利息より高配当である。さらに万馬券をうらやみ、喜ぶ人もいるがこれらの当りは数があるわけでないから、結果的にはあまり本気にならない方がよい。馬券を当てるには全部のレースを買うのでなく二つか三つのレースにしばって特別レースに重点をおくとい

さて、この「むつみ」第十二号(昭和五十七年十月)で紹介した馬券の買い方をもう一度説明しますので馬鹿にしないで、すなおに楽しんでください。

この表は当日の予想新聞を見て、自分自身でそのレースの馬で連にからむ馬番(枠)を定め、その番号から次の表による数字(馬番)に三点流しをするものです。この表はあくまで特別レース用のもので、確率は今までの実績では七割くらいです。



また三才馬や四才未勝利など一般レースではあまり当てはまりませんので注意してください。
馬券にからむ数字連番は次のとおりですが、例のとおり全部当るとは限りませんので念のため。

編集後記

例年の行事である三月、四月にかけての官公庁の異動に伴うあいさつ、送別会、歓迎会、学校の卒業・入学、さらに花見の宴となると金のかかること中々忙しい。勤め人がいただく年度末手当を全部回しても足りないのが普通である。特に会員の方々は永年にわたり、毎年出す一方で、餞別などいただくようなことはまづない。本当に同情します。ある人は餞別はいただくより出した方が生活や暮し面で非常に恵まれていると云うが、毎年この月になると金に対する淋しさがなんとも言えない。

さて新緑も盛りとなってまいりましたが本号は年度末、年度始めなどで各会員の方々も多忙をきわめ投稿が遅れておりますが、それでも田島農地事務所の武藤係長さん始め河東町土地改良区に加藤さん、県より出向されている土地連の白井さん、西根堰の高倉さん（会長）、安積疏水の大内さん、さらに山都町土地改良区の板橋さんより投稿していただき厚くお礼申し上げます。

また、今回は去る四月死去されました新鶴村土地改良区の故木崎氏を忍んで土地連の角田氏より、さらに事務局のお知らせ等と共に会員の名簿も記載いたしました。

本年度の紛会・研修会は七月二十六、七日相馬市の松川浦で盛大に開催する予定でありますので、どうぞご期待下さい。



“土地改良事業に関する業務は 皆さんの会の土地連がお手伝い”

土地改良事業を行う会員の協同組織により、土地改良事業の適切、かつ、効率的な運営を確保、及びその共同の利益を増進することを目的とし、誠心誠意をもって、次に掲げる事業をお手伝いしております。会員の皆様のご利用をお待ちしております。

1. 技術的援助

- (1) 調査設計
- (2) 事業計画の変更
- (3) 工事監督又は工事の指導
- (4) 確定測量
- (5) 換地に関する業務

2. 相談及び指導

- (1) 土地改良事業に関する相談並びに土地改良資金に関する指導
- (2) 土地改良管理指導センター ・土地改良施設の管理に関する技術的な診断、指導
・土地改良施設維持管理適正化事業に関する助言、指導
- (3) 換 地 セ ン タ ー ・土地改良事業に関する換地事務の推進
- (4) 農 村 総 合 整 備 セ ン タ ー ・農村総合整備事業の啓蒙普及並びに技術の向上指導

3. 電算処理

- (1) 土地改良事業工事費積算業務
- (2) 換地業務設計及び経費積算
- (3) 確定測量業務
- (4) 土地改良区の賦課台帳及び通知業務
- (5) 各種土量計算

編集発行人

福島市野田町1丁目15-20
福島県土地改良事業団体連合会内
福島県土地改良団体職員連絡協議会

印刷

福島市五月町1-15
陽光社印刷株式会社
TEL (0245) 22-4191(代)